

# 大和市協働事業提案 公開プレゼンテーション

2004年6月13日開催

発行:玉川まちづくりハウス・大和市民活動課

## はじめに

6月13日、昨年に続き二回目となる協働事業提案の公開プレゼンテーションが開催されました。この場は協働推進会議の委員と広く市民に対して協働事業提案を説明し、相互理解を広めることを目的として開かれるものです。

今年は行政職員が自主的に多数参加しました。このことによって大和市の協働事業に対する市民と行政の相互理解をより一層進めることが期待できる場となりました。提案された協働事業提案は、全部で14件ありましたが、辞退が2件ありましたので発表された提案は全部で12件でした。昨年の17件より少なくなりましたが、その分きめの細かい検討が成されたように思います。

もう一つの特徴として、今年は行政からも協働事業提案が2件出されたことがあります。協働事業のあり方がいよいよ本格的に問われる公開プレゼンテーションになってきたことが林代表のあいさつの中でも確認されました。

7月18日までの公開調整期間に向けて、平成16年度の協働事業提案に対する検討がいよいよスタートしました。



プレゼンテーション開始にあたってあいさつする  
林泰義協働推進会議代表(写真:左)  
と清水市民経済部長(写真:右)

## 大和市協働事業のスケジュール

- 6月
  - 6月13日 公開プレゼンテーション  
協働事業提案者が協働事業の内容を公開で説明します。(このニュースでお知らせしている会議)
- 7月
  - 6月14日～7月16日 公開調整  
公開検討会に向けて協働事業提案者と市担当課ないしは関係者との調整期間です。
  - 7月18日 公開検討会  
公開調整を経て提案された協働事業がどのように修正されたかを確認し、協働事業としての実現の可能性を話し合います。
- 8月
  - 8月25日(予定) 市長への提言  
協働推進会議より市長に対して協働事業提案に対する意見を提言します。
- 10月
  - 10月1日(予定)  
市長の検討結果説明  
提言に対する市の検討結果の説明が市長より行われます。

## 協働推進会議委員は以下のとおりです。 (五十音順)

池本薫 内田俊 内田哲世 宇津木朋子  
岡島順子 河崎民子 小杉皓男 小林敏興  
林泰義 藤田高恵 百瀬比奈子 渡辺精子  
清水和男(職員メンバー)  
熊谷薫(職員メンバー)

当日欠席委員の方  
伊藤健司 内海麻利 中村一夫 平塚恵一

## 協働事業提案のプレゼンテーション

協働事業の各提案者に事業の概要と協働の可能性について説明していただきました(ここでは個人による提案を含め、当日発表した12団体の発表の様子をお知らせしています。1~12までの数字は当日の発表順を表しています)。

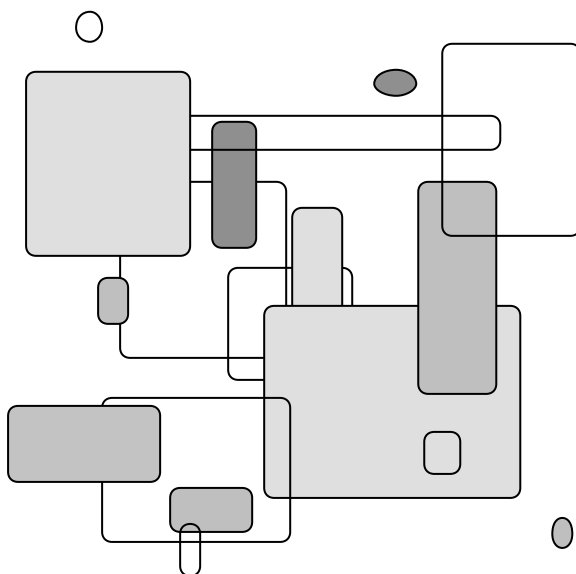
その後の提案市場で協働推進会議委員や参加した市民の方から、提案に対するアドバイスと質問を頂きました。

### ・林代表からの挨拶

協働事業の進め方としては、今日提案を発表してもらい、行政と市民が出会ってこれから協議に入っていくこととなります。協働事業を本格化していくためのお手伝いが推進会議の仕組みです。その代表を務めている林です。行政と市民の方が対等に智恵と資源を出し合いながら協働を実質的に始めている自治体としては大和が先頭を走っていると思います。しっかり提案してもらおうと同時に公開でやっていることで、何をしようとしているか行政に何ができるかをお互いにわかっていくことが、重要です。情報を共有することでこれからの市民社会が見えてくることとなります。この時間をオープンにしてリラックスして進めていきたいと思っています。

### ・清水市民経済部長

昨年は26件の提案があり17件のプレゼンがありました。実際に9件が動き出しています。国の対策として、フリーター対策をNPOにという報道が最近ありましたが、大和市では既に協働事業として取り組んでいます。将来的にはプロムナード、大和駅周辺の整備にも協働事業を立ち上げていきたいと考えています。今日は来年度に向けて協働事業がいくつ立ち上がるか楽しみにしています。



## 1、提案事業名:いざという時のお隣り近所

提案者:やまと災害ボランティアネットワーク

### 提案者の説明

- ・いざという時に頼りになるのはお隣り近所、毎年1月に小、中学校で7年間宿泊体験をやってきた。
  - ・自治会の班単位のところまでおりにいて、少しづつでも防災の意識を持ってもらうような話し合いをしていきたい。
- 4月30日に20名程が第1回目の集会を持った。地道な活動を重ねていきたい。

### 提案に対するアドバイス

- ・まず、道具(のこぎりやかけや等)の調達と使い方の周知。消火器の設置(初期消火)各家族の人員構成をしないと連絡の取り方や非常時の集合場所の周知。
- ・市にできること。団体がすること。明確にしてください。
- ・活動団体としてのあるべき専門性や実力をつくり上げてください。
- ・民生委員、地区社協とネットワークを作っていく。
- ・各自治会の自主防災会に対し地域訓練防災意識の啓発を行っています。(市防災対策課)
- ・地域に防災リーダーを育成しています。現在防災協力員500名弱です。(防災対策課)
- ・自治会、自主防災会を経由したものでお願いしたい。
- ・関心のある人のネットワーク化など、事業として進める内容をより具体化した方がよい。
- ・NHKの「ご近所底力」に出演しては?

### 提案に対する質問

- ・自主防災会の存在、自立性との関係はどのようにかんがえますか?

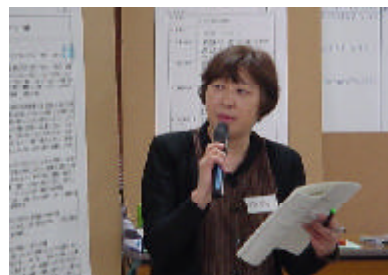


## 2、提案事業名:コミュニケーション支援事業

提案者:NPO法人 カウンセリングコミュニケーションサポートセンター

### 提案者の説明

- ・カウンセリング講座を開催している。(現在2回目)最初は教育、保育士でスタートした。子どもたちとのコミュニケーションを重視していきたい。
- ・カウンセリングのスキルをもっと家庭や学校で活かすために、身近に学べる場をつくりたい。(身近に気軽にをモットーに)
- ・カウンセリング、子育てに関する講座を月1回程度開催し、小中学生のお母さんに対しても、学校という枠を越えて本当に子どものために意味ある関りを考える場を持ちたい。



### 提案に対するアドバイス

- ・協働したい内容を具体的に明確にしてほしい。
- ・活動の対象を乳幼児の母親か思春期の母親とか対象を絞ることで内容の充実が図れるのではないかな。
- ・協働事業提案に参加しているCAP、しんちゃんハウス、法律講座などが集まってシンポをやり、そこに教員の方々に参加してもらいたい。 教委、児童育成課、市民活動課との協力
- ・市と協働することで会場を早くからおさえることの可能性が期待できます。是非協働事業になれるよう応援します。教育相談などの仕組みづくりとして、行政と連携できるのではないかな。
- ・コミセンと学習センターの両方にチラシをおけるようになると多くの関心のある人が気が付いて参加できるのではないかな?
- ・生まれてすぐの母親へのアドバイスになる講座もあるとよいのでは?
- ・保育園や幼稚園がかなりカリキュラムに縛られていて、子供の自主性を殺しているところがあります。幼保の内部を改革する必要があります。
- ・もうワンランク上の講師を呼べる召喚は市がしてよいと思う。

### 3、提案事業名:子どもたちの暮らしやすい地域創り(心のかけはし)

提案者:NPO法人地域家族しんちゃんハウス

#### 提案者の説明

- ・子ども、高齢者に関わらず虐待が問題になっている。しんちゃんハウスは当初、重度障害者を対象にしていたが、現在では子育てや、お年寄りまで出入りするようになっている。
- ・協働として何をするか難しいが、ドクターや弁護士などとも協力を得て、子どもができることは私たちでという考えでやってきた。
- ・子育てについては、お母さんたちが悪い環境に入ってしまった。ちょっとしたきっかけでよくなることもあるので、子育てにも教育が必要だと思う。
- ・きちんとした受け答えができる障害者を地域で受け入れる地域力が必要。あたりまえに受け入れられる社会づくりが必要である。もっと情報を流して欲しい。それを知るのは市民一人一人である。



#### 提案に対するアドバイス

- ・協働事業のメンツで市からの相談をつなぐ
- ・市がこのようなNPOの活動をひろくPRする義務がある。
- ・市の中の位置付けとして協働の関係にある事業であることを広く知って欲しい。
- ・市との協働についてしんちゃんハウスのニュースを
  - 1、ホームページに載せる 2、広報 3、どこコミなどの情報媒体の情報を提供してほしい
- ・子育てのプログラムづくりをニュージーランドの例を勉強して共有したい。 児童福祉課
- ・小学校という「場」に理解がありそうな現場の先生をアタックする。
- ・「子ども」を中心とした活動を基本に、交流事業として障害のある方、高齢者も対象としてはどうか？
- ・地域の方との交流により、地域力の向上につながるのではないですか？
- ・とにかくPRの方法を模索。横の連絡でまとまってイベントを企画する。
- ・市の療育相談の係とも連携(窓口での情報提供)
- ・児童育成課等、市職員に実際に行き見学してもらい、窓口での情報提供に努めてもらう。
- ・1、市が各家庭に配布している「市政ガイド」や2、市のHPに団体やサービスの紹介が掲載されるとよいのでは？ 3、市民版の総合HPがつくられるとなおよい。板橋区の事例
- ・子育て、障害、高齢者、地域力、この内容を担当するのに現在の行政機構(縦割り行政)では限界があるのではないか。

#### 提案に対する質問

- ・今年度から3年間重点的に進める事業は何ですか？

#### 4、提案事業名:高齢者、障害者、病弱者などの住宅生活を支援する事業 提案者:NPO法人ワーカーズ・コレクティブ想

##### 提案者の説明

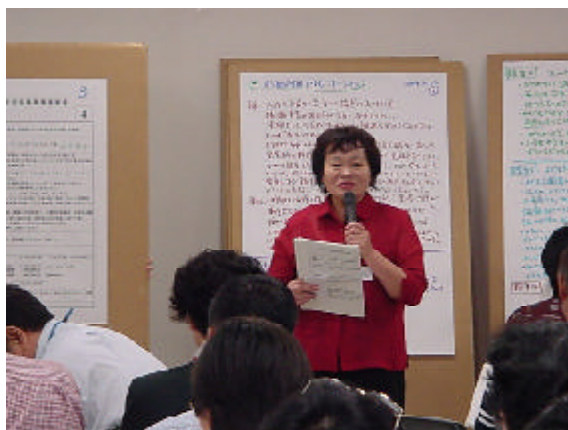
- ・利用者のニーズに合わせたサービスということで、ワーカーズ想を始めた。今日まで利用者に育てられたと感じている。
- ・SOSの電話に対してとりあえず話を伺うことからはじめ、会話をし入会してもらいケアがスタートする。入会して安心して終わりということもある。それだけ不安が大きいということだと思う。
- ・安心とは何か？制度がない時代は心から考えたケアができた。私は人間でありものではない、と訴えた人から多くを学んだ気がする。
- ・私たちの会の料金設定は継続という意味と、対等な立場を守るために考えられている。
- ・もっと多くの人に知ってもらいたいので、協働事業に参加した。介護事業の対象とならない人の役にたきたい。

##### 提案に対するアドバイス

- ・「想」は地域の個人のニーズは判る。これを地域にサービスする団体組織につなぎたい。 広聴広報、情報担当課
- ・市が各家庭に配布している「市政ガイド」、市のホームページに、団体やサービスの紹介が掲載されると面白い。市民活動センターでHPをつくる方法もある。
- ・介護保険制度の制約と現実の介護を必要としている人々のニーズのずれに対してどう協働して打開するか具体的に検討して欲しい。
- ・提案の理由として介護保険対象外の市民の必要についてよく説明して下さい。
- ・「想」の思いを実現するには、市民活動課、ボランティアセンター、拠点部会、推進会議と協働で検討する場、機会を設けましょう。
- ・事業のコンセプトをはっきりさせる必要があるのでは？たとえば、介護予防そのために何をするのか。その評価も含め、考えていくといいと思います。
- ・アピールならば他の方法もあるのではないかと期待することを詳しく聞きたい。
- ・市との協働でアピールしてほしいことと、その方法を具体的に教えてください。
- ・信頼関係の継続、存在内容のアピールがなぜ協働事業でありたいのか教えてください。
- ・ゴミだしの支援は近隣の人たちとの支え合いの仕組みをつくる必要がある。

##### 提案に対する質問

- ・介護保険との関係？その制度とかがわからない部分とは？
- ・障害者については支援制度の中でホームヘルプが行われており。具体的にどのようなサービスをイメージされているのですか？
- ・介護保険外での有料サービスを提供している事業者の情報を集約して発信してはいかがでしょうか。
- ・想の目的をアピールすることが協働か？



## 5、提案事業名:市民による市民の為の市民が作るウェブサイト

提案者:友部 浩

### 提案者の説明

- ・ホームページを持っている人、作れる人は少ない。
- ・市民が簡単に参加できる、作ることができるウェブサイトを作りたいと思って応募した。たとえばワークス想さんのことを知っている人が案外少ないということもインターネットで知ってもらえるのではないかな。
- ・先日フリーターの方にアンケートを取りたいという話があり、携帯メールは大きな媒体になると思った。
- ・一般の市民が使えるウェブサイトの地域版をつくりたい。



### 提案に対する質問

- ・情報発信するための情報そのものはどのように収集するのか。
- ・一般の市民がつかえるサイトのイメージとは？地域版とは？
- ・具体的に市民の声など紹介するものをどう収集していくのか、そのシステムは？
- ・公共の情報発信として内容をどこまで広げていくのか？
- ・yahoo型のサイトを立ち上げるとなると、資金、技術より相当なマンパワーが必要でしょう。立ち上げ時にどれだけ人を引き寄せられるコンテンツが充実しているかがカギです。どのようなイメージを持っていますか？
- ・市民活動センターでいっしょにやりませんか？
- ・大和市の社会資源の紹介と利用したい人とのドッキングの場になれないのか？

## 7、提案事業名:相模大塚駅に行列のできる店をオープンさせる事業

提案者:桜森自治会

### 提案者の説明

- ・桜森自治会として提案、大和市には現在8つの駅がある。相模大塚駅を活性化したい。
- ・自治会としては、お店の誘致までをしたい。相鉄の土地を市で借りてもらって、古い車両を活用してお店にする。
- ・相模大塚駅をすばらしいものにしたい。電車マニア、飛行機マニアを対象に自治会としても検討していきたい。
- ・相鉄とはすでに話をしている。相鉄サイドは市の出方に期待しているようだ。



### 提案に対するアドバイス

- ・協働事業とするなら、市全域を対象にするようにという強いアドバイスが昨年度はありました。
- ・いこいナードも活用したPR(いっしょにスペースとして使うとか。)
- ・使う車両の種類(レトロなやつが良いのでは？)
- ・泉の森とも連携したPR。
- ・行列ができる店は店主などの工夫や智恵や努力で実現したもの。まず、そのあたりの決意と自立性が大切なのは？
- ・公共的スペースを持つものにしたら。
- ・電車ショップに付加価値をつけてはどうか(ドッグラン等)

### 提案に対する質問

- ・福生市の国道16号沿いのように「基地の周辺」的な売り込みは？

## 6、提案事業名:生ゴミ分別回収事業

提案者:松井 昭治

### 提案者の説明

- ・大和市のコンポストを2つ畑に用意して活用している。家庭3～4人で6ヶ月で一杯になる生ゴミが出る。半年ねかして2つで交互に使っていくと、充分利用できる。
- ・8年間やってきて、どうして大和市は生ゴミを分別回収をしないのかと疑問に思っていた。協働事業ということを開いて提案した。
- ・生ゴミを燃やすのはおかしい、生ゴミは一種の資源である。リサイクルして資源として活かしたい。
- ・ある地区を限定して3年ぐらい試行すれば問題点が明らかになる。次のステップで拡大していけばよい。
- ・メリットとしては焼却炉の寿命とダイオキシンの発生をおさえられる。市民の意識、モラルの向上が図れる。

### 提案に対するアドバイス

- ・ホームファーマー制度と元気野菜の協働をしたら。元気野菜を宅配してそこで堆肥回収するとか。
- ・大和市では6つの森が保全されています。循環 落ち葉を堆肥にするActionと共同で水と緑課への提案ということも考えられます。
- ・ドイツでは庭のある家は、生ゴミをゴミとして出さず、土に埋める。このことを徹底させていると聞いています。
- ・「市に期待すること」をより具体的にご検討ください。例:堆肥化するための用地(市有地など)の提供
- ・家庭からの生ゴミに対して有料とするのは現状としては難しいのでは。
- ・生ゴミ、飼料化の検討はできませんか?
- ・生ゴミ回収で堆肥を作り、農協等の協力により資金を得て事業の継続を図ることが可能では。事例有り。またこの堆肥で有機野菜をつくり、大和ブランドの野菜づくりにも一役かうというストーリーも描けると思います。
- ・より具体的なものが見えてくれば、市も始めようとするでしょう。是非やってほしいので具体的に堆肥が欲しい人を探します。

### 提案に対する質問

- ・モデル地区はどこをお考えですか?  
モデル地区で市も参加して検討プロジェクトを立ち上げると面白い。
- ・人件費はどの程度をお考えですか?  
1日当たり単価、1日当りの必要人工。
- ・1世帯1年当りの生ゴミ排出量の試算。



## 8、提案事業名:悪い大人に負けたいための法律講座

提案者:神奈川県行政書士会 大和・綾瀬支部

### 提案者の説明

- ・大人も知らない法律講座をやってみたい。主旨としては自分の身を守ってくれるものとして、子どもたちも法律知識を身に付けてもらいたい。問題解決力をつけてもらいたい。
- ・子どもでもわかる、わかりやすいものとしたい。市役所でやる法律相談は問題がおきてからのもの。起きる前に予防として行う法律相談を考えている。
- ・行政書士会の持っている専門性を持って市と協働していきたい。

### 提案に対するアドバイス

- ・アルバイト等、身近な事例から入るとよいのでは？
- ・相談窓口としての機能は？(駆け込み寺といった感じ)
- ・窓口は教育委員会(中学校)、学校教育課。他に窓口はないか？
- ・協働の相手の行政として警察なりがあってもよいのではないのでしょうか。
- ・CAPと窓口をひとつにしてやるのっていかが。
- ・子どもへの出前のイメージは？

### 提案に対する質問

- ・事業内容はとても良いが「市と協働しないといけない」部分がわからないので、そこをアピールしてほしい。
- ・税、年金(社会保障)などの知識の提供はできないか。 税理士、社労士を巻き込む



## 9、提案事業名:CAPプログラム(子どもへの暴力防止プログラム)提供事業

提案者:NPO法人やまとCAPひまわり

### 提案者の説明

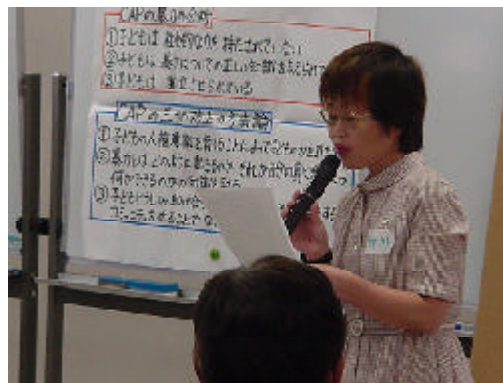
- ・神戸事件のあとCAPの活動が目立った。
- ・暴力防止としては、行動を制限すること、加害者に罰を与えることが考えられるが、CAPのプログラムは子どもたちに何ができるかを考える問題解決力を与えるもの。
- ・あるがままを受け入れ、子ども本来の力を引き出していくのがCAPの暴力防止の方法論。
- ・子どもがつなく学校、地域、コミュニティという考えを基本に、子どもが楽しんで参加できるワークショップを提案している。
- ・子どもが暴力にあわないために、暴力をなくす、それからのがれることをテーマに、学校で子どもワークショップ大人ワークショップを実施する。
- ・協働事業として市に援助を期待したい。

### 提案に対する質問

- ・資金援助の具体的内容について知りたい。事業に要する経費を行政に分担して欲しいということですか(全部または二分の一~三分の一)
- ・子どものいない家庭へのアプローチは？
- ・学校のなかでできるよう、授業で無理ならPTAなどを使ってできないか。在学中に一度は受講できるように。

### 提案に対するアドバイス

- ・地域で子どもをみるというスタンスで、単なる請け負いでなく協働事業として提案しているところがとても良い。
- ・地域の住民たちが子どものことを自分たちで考えられるよう、地域にも啓発していきたいという考えは重要。 協働のテーマとして不可欠
- ・CAPのプログラムを行えるスタッフの養成&トレーニング講座を定期的に行えるよう予算組みをおこなえたらいいのでは。
- ・警察への働きかけはどうか？
- ・8の悪い大人に負けたい法律講座の子どもたちと窓口を共有することを考えて。





## 10、提案事業名: ホームファーマー制度を支援し、「地産地消」「有機農業」を推進するための基盤整備

提案者:NPO法人ラブサポートセンター

### 提案者の説明

- ・ラブサポートセンターとして提案、地域経済の活性化をしたい。
- ・大和市はホームファーマー制度を今年始める予定。農産物の流通PRの支援をしたい。
- ・地産地消ということを実現するために有機農業を推進し、安全で安心な農産物を提供したい。
- ・農地を農家ではない人に開放していくという制度を推進するために、農産物を地域に提供していくことが問題となる。ラブサポートセンターで取り組んできた、「元気野菜づくり大和」の活動を発展させて考えていきたい。

### 提案に対するアドバイス

- ・非農家による農業生産物の販売は法律で禁止されています。特区のような枠組みが必要なのでは？
- ・公立の学校給食、保育園の給食に使ってもらっては？
- ・総合学習の時間は「食育」の一環として売り込んでは？
- ・根本的に農地の貸付条件の中で出荷物に対する流通を考えた場合、システム上営利を目的するものと考えられるので難しい。
- ・市民提案ではあるが、手法が行政っぽい。実際にファーマーとなる人たちの発掘まで手がかけられると意味がある。



### 提案に対する質問

- ・このシステムの可能性は？生ゴミ、ホームファーマー、行政、LOVESの関り。

## 11、提案事業名:大和市男女共同参画に関する市民の意識調査

提案者:大和市 市民活動課

### 提案者の説明

- ・「やまと男女共同参画プラン」で来年度から第2次の実施計画に入っていく。その前提となる市民意識調査を市民とともにやっていきたい。そのために地元大学といっしょにやることを考えた。
- ・意識調査の内容は大学側と調査項目の検討から始める。次に住民基本台帳から3千人の抽出、データ解析を協働して進める予定である。H16年8月～H17年3月までに終了したい。
- ・男女共同参画が推進できるような地元大学との協働提案。

### 提案に対するアドバイス

- ・単なる委託とにならないようにアンケート作成から協働としていくべきだと思います。協働としていく計画
- ・市民意識調査を地元大学に決まった経過説明をお願いしたい。大学の高度な専門性を生かしたとありますが、この大学は女性問題の専門家がいらっしゃるのでしょうか。
- ・委託ではなく協働でやることのメリットが今一つわからないので、その部分をもっとアピールしてほしい。
- ・アンケート調査のプロセスの中にヒアリングなど「人と出会う」というプロセスを組み込めれば、より大学生の意識の啓発を行えるのではないのでしょうか。



### 提案に対する質問

- ・質問項目の精査に大学だけでなく有識者を市民から数名入れてはどうか。
- ・大学側から協働の提案が出た方が分かりやすい。

## 12、提案事業名:市民主体の(仮称)市民活動センター運営事業

提案者:大和市 市民活動課

### 提案者の説明

- ・拠点の準備会にみなさん参加して頂きたい。
- ・条例の中に「社会資源」という言葉が謳われている。私(わたくし)の領域をこえてみんなのために使おうと考えた時、社会資源となる。
- ・協働推進会議の拠点部会の呼びかけた準備会があるが、近く運営委員会を立ち上げる予定、そこに多くの市民に参加してもらいたい。
- ・準備会では拠点のレイアウト等を考えている。拠点について感じたことを話し合う会議を、月2回開催している。場所は商工会議所の隣のプレハブ。得意な分野のことで持ち寄って会議は行われている。拠点そのものが社会資源の集積であることがすばらしい。



### 提案に対するアドバイス

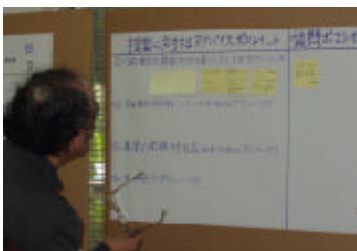
- ・再度、市内のNPOへダイレクトメールで参画を募る。
- ・NPOへのニーズの調査をした方が良く、その中で新しいアイデアや人材が出る。
- ・知名度がいまいちなので、もっとP.I.をしてはどう？

### 提案に対する質問

- ・他市の事例の参照しては？
- ・趣味のサークルとの区分はどうする？
- ・公平、平等の運営方法は？運営方針の確保策は？
- ・直営か、指定管理者制度か？
- ・この提案は、本来この場で出すものではなく、報告ではないのか。拠点準備会である程度まとめられたものはその親組織である協働推進会議で諮るものである。この場でプレゼンする意図がわからない。市民に知ってほしいのなら別枠で報告とすべき！
- ・市の提案と事業者の提案で、今後の進め方(協働推進会議での内容)は、何か違いがあるのですか？

### 提案市場で理解を深める

それぞれの提案をボードに張り並べ、市場方式で自由に質問とアドバイスのやり取りをしました。参加者はそれぞれ積極的に各テーブルを回り、皆さんの提案の細部まで質問し、説明を受けました。今回は提案に対するアドバイスを、協働の具体的内容に対するアドバイス、協働の体制づくりのためのアドバイス、事業の実現性を高めるためのアドバイス、その他のアドバイスの4つにわけてよりわかりやすく具体的なアドバイスになるような工夫がなされました。



## グループに分かれ、検討・発表

12の提案を関連があると思われるテーマ別に5つのグループに分け、それぞれ担当の協働推進会議委員を交え、7月18日の公開審査ワークショップまでにしておくべきことについての検討・確認を行い、その結果を発表しました。また、関係する行政所管課とその他のネットワークすべき団体についても話し合われました。

### 【関係する行政所管課とその他のネットワークすべき団体】



#### 1、いざという時のお隣近所

防災対策課、自主防災組織(自治会)、防災リーダー

#### 2、コミュニケーション支援事業

児童育成課、生涯学習センター、指導室、青少年センター、しんちゃんハウス、CAP、法律相談行政書士、就労支援、チャイルドケア

#### 3、子供たちの暮らしやすい地域創り

児童育成課、青少年センター、障害福祉課、生涯学習センター、市民活動課、ワーカーズ・コレクティブ想、チャイルドケア、カウンセリングサポートセンター、市社協 地区社協、ボランティアセンター)

#### 4、高齢者、障害者、病弱者などの住宅生活を支援する事業

高齢者福祉課、障害福祉課、医療健康課、児童育成課、市社協ボランティアセンター、拠点、ケアびーくる、しんちゃんハウス、チャイルドケア、在宅介護支援センター、地区社協

#### 5、市民による市民の為の市民が作るウェブサイト

市民活動課、情報政策課

#### 6、生ゴミ分別回収事業 環境部、環境総務課?、収集業務課?

#### 7、相模大塚駅に行列のできる店をオープンさせる事業

都市整備課、産業振興課?、市民活動課、相鉄

#### 8、悪い大人に負けないための法律講座

子供会等、青少年センター(生涯学習部)、指導室(教育総務部)、地域活性化会議(PTA)

#### 9、CAPプログラム(子供への暴力防止プログラム)提供事業

幼稚園、小学校、中学校、高校、教育委員会、市民活動課

#### 10、ホームファーマー制度を支援し、「地産地消」「有機農業」を推進するための基盤整備

農政課、情報政策課、6、生ゴミ分別回収事業の提案者(松井さん)

#### 11、大和市男女共同参画に関する市民意識調査

セシリア短期大学

#### 12、市民主体の(仮称)市民活動センター運営事業

拠点準備会

### 【検討結果の発表】

#### Aグループ

8. 悪い大人に負けないための法律講座

9. CAPプログラム(子どもへの暴力防止プログラム)提供事業

#### 8. 悪い大人に負けないための法律講座

・小学校、中学校できれば高校も含めてできれば教育のカリキュラムの中に可能ならば組み込んでもらいたい。それ以外にも地域の子供会などにも出向いてやりたい。

・関係部署としては、青少年センターの生涯学習部と教育委員会の指導室との折衝が必要。

・教育委員会の役割としては、法律講座の出前に対するPR。地域にこのグループの存在意義が根付いていくことになることが期待できるので事業立ち上げの支援としての位置づけになる。

・スケジュールとしては、6月中に関係部署課とCAPと一緒に調整する。

#### 11. CAPプログラム(子どもへの暴力防止プログラム)提供事業

・全国的にこのような事業が進んでいる。カリキュラムの中に含めて欲しいという要望がある。すでにプログラムができていて講座料等の料金設定もしっかりしている。委託事業としての性格が強い。事実各地では委託事業として取り組まれている。

・協働事業というよりは委託事業としての調整を同時進行してやったらということになった。協働事業としての可能性もCAPと一緒に追求していく。

・関係部署課としては、教育委員会の指導室と調整していく。

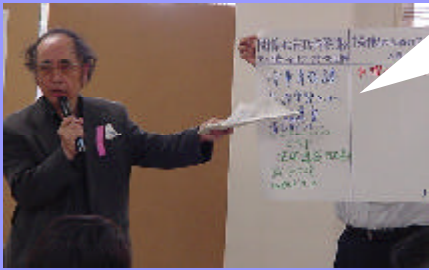
・参考として過去の経歴をのせておいた。

・市の教育委員会の方にボランティア講師制度というものがあるので、登録すると学校長の判断で授業ができる。ボランティア講師制度に登録できるかどうかを同時に考えるということになった。



## Bグループ

2. コミュニケーション支援事業 3. 子どもたちの暮らしやすい地域創り  
4. 高齢者、障害者、病弱者などの在宅生活を支援する事業



- ・行政の所管とその他のネットワークすべき団体を書き出した。
- ・福祉の分野で共通していることが多いので調整すべき団体もほぼ同じになっている。
- ・想の協働提案は、医療健康課というところを加えて調整先としてリンクしたいということになった。
- ・いろいろな課が指摘された。いろいろなネットワークすべき団体が出てきた。みなさんがいろいろなところと関連しながら生活している生活人だということを感じた。

- ・行政の方からもいろいろなコメントがあって、やっぱりネットワークが一番大事でこんな風に集まったことがよかったということ、その意味でも拠点というのが必要なんだということが確認された。
- ・協働事業の中で拠点ととにかくいろいろなものが集まってくる、物理的な意味の拠点というだけではなくて、ウェブサイトを見ればそこにいろいろな情報が集まっているような引きやすいウェブサイトであることが必要ではないかという指摘もあった。
- ・いろいろな課にまたがっているとうことで、どの課にアプローチすればよいかは調整の中で定まってくるように思う。協働提案の方があちこちに行くのではなくて、合同して調整していくことができるようなアドバイスの日程を決めていきたいということになった。

## Cグループ

5. 「市民による市民の為の市民が作るウェブサイト」  
10. ホームファーマー制度を支援し、「地産地消」「有機農業」を推進するための基盤整備

### 5. 「市民による市民の為の市民が作るウェブサイト」

- ・この提案は個人提案。個人の熱い思いを語られた提案だった。ただ、今後協働事業としてできるのかできないのかが課題です。
- ・どんなウェブサイトなのかイメージがもう一つ具体的ではない。とにかく市民の困っている情報をたくさん載せて欲しいということだということですが、これだけではどう協働するかわからない。サイトをつくっても全然更新されないサイトでは魅力がないものになってしまう。日々どのように更新していくのか。マンパワーはどうするのか。あるいは情報収集はどうするのかなどまだご自身わかっていない部分が多い。まずは仲間づくりをする必要があるのではないかという話になった。
- ・とりあえず関係する課としては、市民活動課と情報政策課が関係部署ということになった。一度とりあえず会議を持つということで来週ぐらいに予定することになった。



### 10. ホームファーマー制度を支援し、「地産地消」「有機農業」を推進するための基盤整備

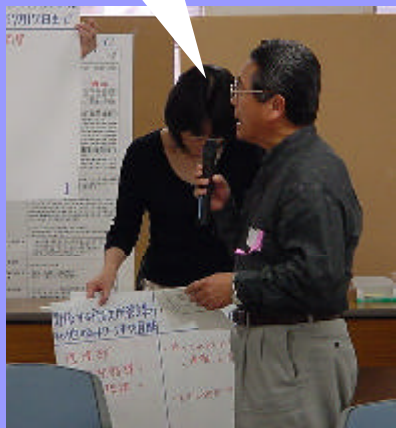
- ・法律の問題があって、勝手に農作物をつくって勝手に売っては行けないという法律がある。ホームファーマー制度というのも基本的には自家消費を前提にしているので、販売するというハードルをどのように乗り越えるのかという問題がある。
- ・一つは、ホームファーマー制度を使わないという選択である。農業従事者は県知事からお墨付きをもらっているのでその人たちと一緒にやる方法が考えられる。遊休農地を借りて小作人になるという方法はどうかということである。その部分については有機農法で販売方法も明示して農業者のマーケットを侵害しない方法で進めていくことは考えられないか。ただし、農作物は農家の方のものということにする。
- ・もう一つの方法は、販売をしないということが考えられる。ホームファーマー制度でいろんな人が作った作物を物々交換を原則にしてはどうかという考え方があつた。
- ・提案者の方からものを売ることには特にはこだわらない。それよりも大和市の緑地率の低下の問題、荒廃農地が問題だということだった。農地は農作物を作るだけではなく環境保全や緑地という点からも大切な問題であり、安心・安全な野菜を手に入れたいという方は必ずいるということで、形にはこだわらないということであった。
- ・そこでこの提案についてはもう一度修正をかけてみて修正案を作ってみようということになった。法律に抵触しないようにもう一度再構築することになった。
- ・時期的にはここ一週間か十日ぐらいの間にもう一度集まることになった。

## Dグループ

1. いざという時のお隣近所
6. 生ゴミ分別回収事業
7. 相模大塚駅に行列のできる店をオープンさせる事業

### 1. いざという時のお隣近所

- ・防災ネットワークを張り巡らすということで、提案者の方は非常にきめ細かな具体的なネットワークをねらっている。市が考えている防災のネットワークには自治会をベースにした自主組織というものがある。これも活発な活動をしている。
- ・この二つをドッキングさせてやっていこうということである。
- ・しかも一地域に限定してはいけないという行政の基本的な考え方もあるので、次の会議では防災対策課と対象範囲をどう考えるかを調整してもらうということで日時を設定した。
- ・上からいわれた官制の防災組織ではなくて、あくまでもコミュニティが主体となって防災していくという視点に立っているすばらしい提案である。



### 6. 生ゴミ分別回収事業

- ・海老名市などでは既に行われているということです。大和市はこの問題については今まで検討しているにもかかわらず、その情報を公開していないという提案者の指摘があった。
- ・大和市の考えをまず聞こうということから始まった。提案者の考え方も理念はしっかりしているが具体性にかけている点が指摘された。
- ・まず市が今までの情報を公開してそこでやっていこうということである。
- ・市がどこまでこの問題について本気かどうかのポイントになる。
- ・日時については調整することになった。

### 7. 相模大塚駅に行列のできる店をオープンさせる事業

- ・一見私的な事業を行政がバックアップするよう見えますが、そうではないということである。
- ・一つは相模大塚一体のまちづくりという観点から考えてみようということで、何らかの公共的なスペースを含んだ開発をするということです。公共的スペースとは、例えば市民活動課が進めようとしている活動の拠点とかコミュニティサロンなども入れ込んだらどうかということ。
- ・人々が集まって消費したり知恵を出し合ったりする場所を儲けていきたいということです。
- ・これについては今まで何回も市に要請したが、却下されているそうです。この提案も前のものも行政に対する何らかの不信があるようですが、過去できなかったら駄目だということではなく新しい可能性を見出すというところに新しい公共という言葉が生きてくるということで行政の壁をうち破ろうということで意見が一致した。

## Eグループ

- 1 3. 大和市男女共同参画に関する市民意識調査
- 1 4. 市民主体の（仮称）市民活動センター運営事業

### 1 3. 大和市男女共同参画に関する市民意識調査

- ・このグループは行政からの提案。この提案は市民活動課からの提案になっている。
- ・相手の団体は地元の大学ということでセシリア大学。そちらの方ともある程度の話は進んでいるとのこと。昨年共同参画のセミナーと一緒に開催した実績があるということで協働提案の相手に選ばれたということ。今日は残念ながらそちらの大学の関係者が欠席なので具体的な話を聞くことはできなかった。
- ・一週間以内に推進委員も含めた三者の会議を持つ予定。



### 1 4. 市民主体の（仮称）市民活動センター運営事業

- ・これは大和市の条例で公設で運営を市民がするというになっている。オープンは来年の1月の予定。そのため今年4月から拠点の準備会が動き出している。
- ・担当は市民活動課。拠点準備会にもっと多くの方に参加して欲しい。これが運営委員会に移行していくことになるが、ここにもっと多くの方が参加して欲しいということで市側からの提案になった。
- ・準備会は既に月に二回ずつ開催されてるのでそこで推進委員も加わって調整していきたいと考えている。
- ・そこに是非参加していただいて、より良い運営委員会を立ち上げる方向で行きたいと思っています。

## 【アドバイスカードから】

最後にこの日の公開プレゼンテーションのまとめとして協働推進委員の河崎さんよりあいさつがあり、この公開プレゼンテーションの感想を「アドバイスカード」に記入して頂きました。

悪い大人に負けないための法律講座防止の分野という考え方で、中学校に入ってほしいと思います。関心がない子どもたちが、話を聞いて大きく心を動かされて「聞いてよかった」「誰も教えてくれなかったけど、知ってよかった!!」という子どもたちの声をよく聞いています。是非学校へ!

市は財政難なので、あまりお金は期待せず、ここに参加提案したみなさん同志で連携して、勝手に事業をしたらいいと思います。市民のためのウェブサイトで宣伝して、みんなでそこに宣伝を頼んで、農業も堆肥はあるし、宅配グループもあるし子どもに関する団体もこれだけそろえばみんなで協力したらすごいことができそうです。

福祉部門に関するものは行政の縦割りの発想に限界があり、今回の調整は、各課でいっしょに行うことで、期待したいところです。

このような機会をつくっていただいたことに感謝しております。提供に対して我々ではわからない問題点が多くあり、大変参考になりました。各ご意見を踏まえて、今後対応したいと考えております。

市民活動センター：都市整備課街づくり推進担当も混ぜて！  
今日の感想：公開プレゼンテーションは初めて出ましたが、とても面白かったです。

提案：「6、生ゴミ分別回収事業」「11、ホームファーマー制度を支援」とは協働できるのではないのでしょうか？

各地域で住民のニーズに応じて活動している市民団体はいずれも市にPRしてほしいと願っている。問われるのは、協働という形でなくても、市の職員の方々がどれだけ自分の所管関係の市民団体や市民が活動しているのを知っている事そしてネットワークをもつ努力をしてもらいたいと感じた。協働提案は市民の側からのネットワークへの呼びかけ、働きかけだと感じました。

協働による市民意識調査は環境部で行われたことがあるので、初とはなりません。

2、コミュニケーション支援事業  
3、子供たちの暮らしやすい地域創り  
8、悪い大人に負けないための法律講座  
11、CAPプログラム(子供への暴力防止プログラム)  
提供事業ネットワークにも期待します。

協働提案しまして、いろいろな活動をしている方と知り合えて良かったです。またCAP活動に意見等頂けてよい機会を得られました。市民、行政の方々にサポートして頂いてCAP活動を築いていきたいと思えます。そして、ネットワークの大切さも痛感しました。ネットワークを立ち上げ確立していくことを望みます。

## 【河崎副代表からのあいさつ】



去年協働事業についての公開プレゼンテーションというのが始まりました。その時は私も推進委員もはじめての経験でドタバタしていたという記憶があります。今日は二回目ということで事業数も去年の半分位ということで参加した方々も十分な討議ができたのではないのでしょうか。土日に市役所が使えるようになったというのも今年の大きな特徴です。市役所の中で公開プレゼンテーションができたというのも良かったと思います。私自身も福祉関係のNPOをやっていますが、子どもの問題、高齢者の問題、環境問題等様々な問題でこんなにたくさんの大和市民の方がまちづくりに関わっているということに胸が熱くなりました。今年は、行政側からもはじめて協働事業の提案があったということも大きな特徴です。これに関しては、推進会議の方もまだきちんとしたシステムやノウハウを持っていません。全国初の試みだということですが、行政側から協働の提案が出てきたということを実に大事にしながら新たなシステムを作り上げることができるよう経験を集めていきたいと考えています。協働と委託というところの違いは、対等性というところが大きいと思います。委託で十分なサービスが行われるのであれば委託でもいいのですが、協働事業とすることでそこに主体が絡んでより市民のニーズにあったより良いサービスができるようになるものについてはどんどん協働事業とすべきであろうと市民の側としては思っています。来年は行政の側からも市民の側からももっともっとたくさんの提案が出ることを期待しまして挨拶とさせていただきます。どうもお疲れさまでした。